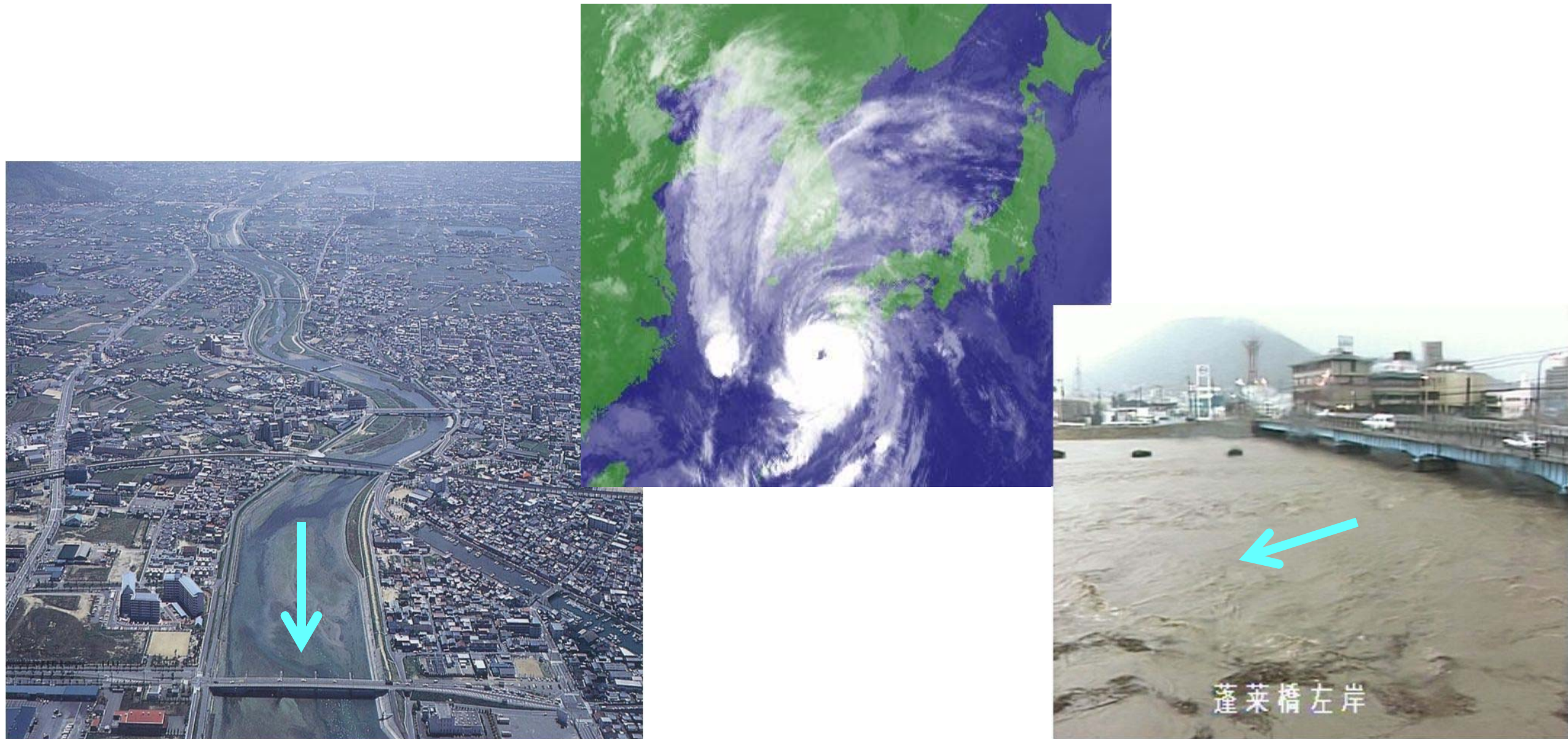


土器川モデル地区(丸亀市土器町東・北)における 住民タイムライン (案)



平成28年2月25日

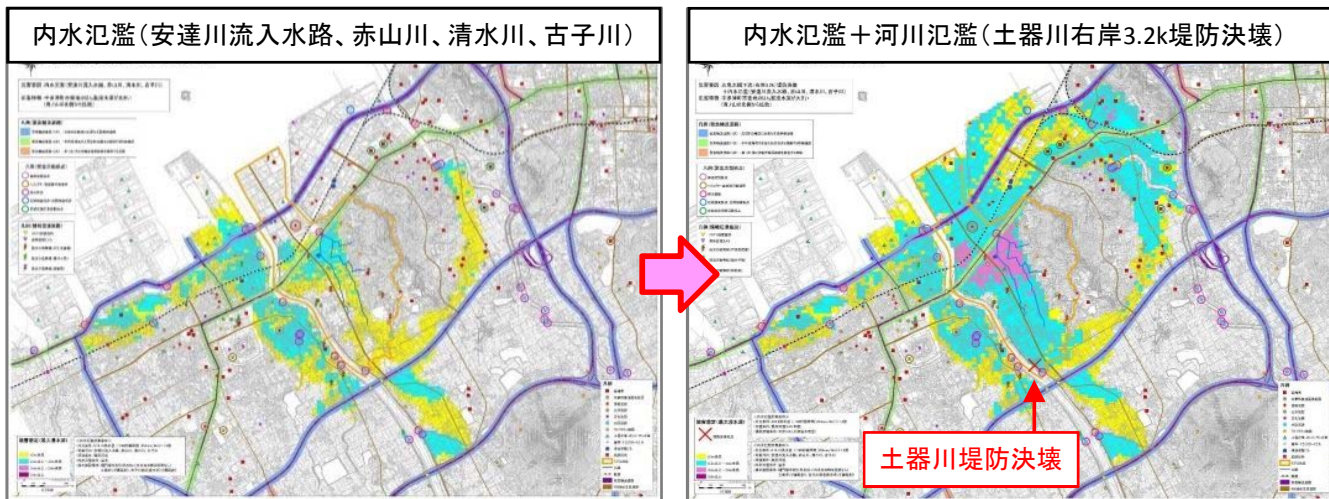
土器川モデル地区(丸亀市土器町東・北)における住民タイムライン(案)

1. 目的

- これまで経験したことのない大規模な水災害が発生した場合には、事態の推移に応じた防災対応を実施しようとしても、各機関、部局等の防災対応に係る意志決定、連携が遅れる懸念がある。また、地域住民は、事態が把握できず、避難行動が遅れ、孤立したり、被災を受けることが懸念される。
- このため、国土交通省では、**時間軸に沿った防災行動計画(以下、「タイムライン」と呼ぶ。)**の策定および実践に取り組むこととしている。
- 香川県中讃地区(土器川)では、国土交通省、香川県、丸亀市および地域住民の連携による“水害に強いまちづくり”のためのアクションプラン検討を実施していることから、「タイムライン」を検討項目に取り入れ、“**地域における自主的かつ積極的な取り組み**”と位置づけた**タイムライン検討**を実施するものとした。
- タイムライン検討では、モデル地区における**複合災害(内水氾濫、外水氾濫、土砂災害)**を想定し、また時間軸は、**災害警戒期から応急対策期まで**を対象として、地域住民が“**早めの安全な避難行動**”や“**発災後の迅速かつ適切な防災行動**”を実行できるように、“**住民タイムライン(案)**”を作成した。

2. 被害想定

- 大規模な台風や大雨に起因する**複合災害**を対象とする。
 - ①河川(外水)氾濫による浸水 : 土器川の堤防決壊(浸水シミュレーションの対象)
 - ②内水氾濫による浸水 : 安達川流入水路、赤山川、清水川、古子川からの溢水・湛水(浸水シミュレーションの対象)
 - ③土砂災害 : 青ノ山周辺の土砂災害(香川県公表の土砂災害警戒区域)
- 浸水シミュレーションの外力規模は、地球温暖化に伴う気候変化による降雨量の増加倍率を踏まえ、土器川**基本方針(1/100規模)の1.2倍の降雨**を設定



- 堤防決壊4時間前: 低平地で浸水開始
- 堤防決壊2時間前: 古子川下流へ拡散
- 堤防決壊1時間前: 清水川・赤山川下流へ拡散

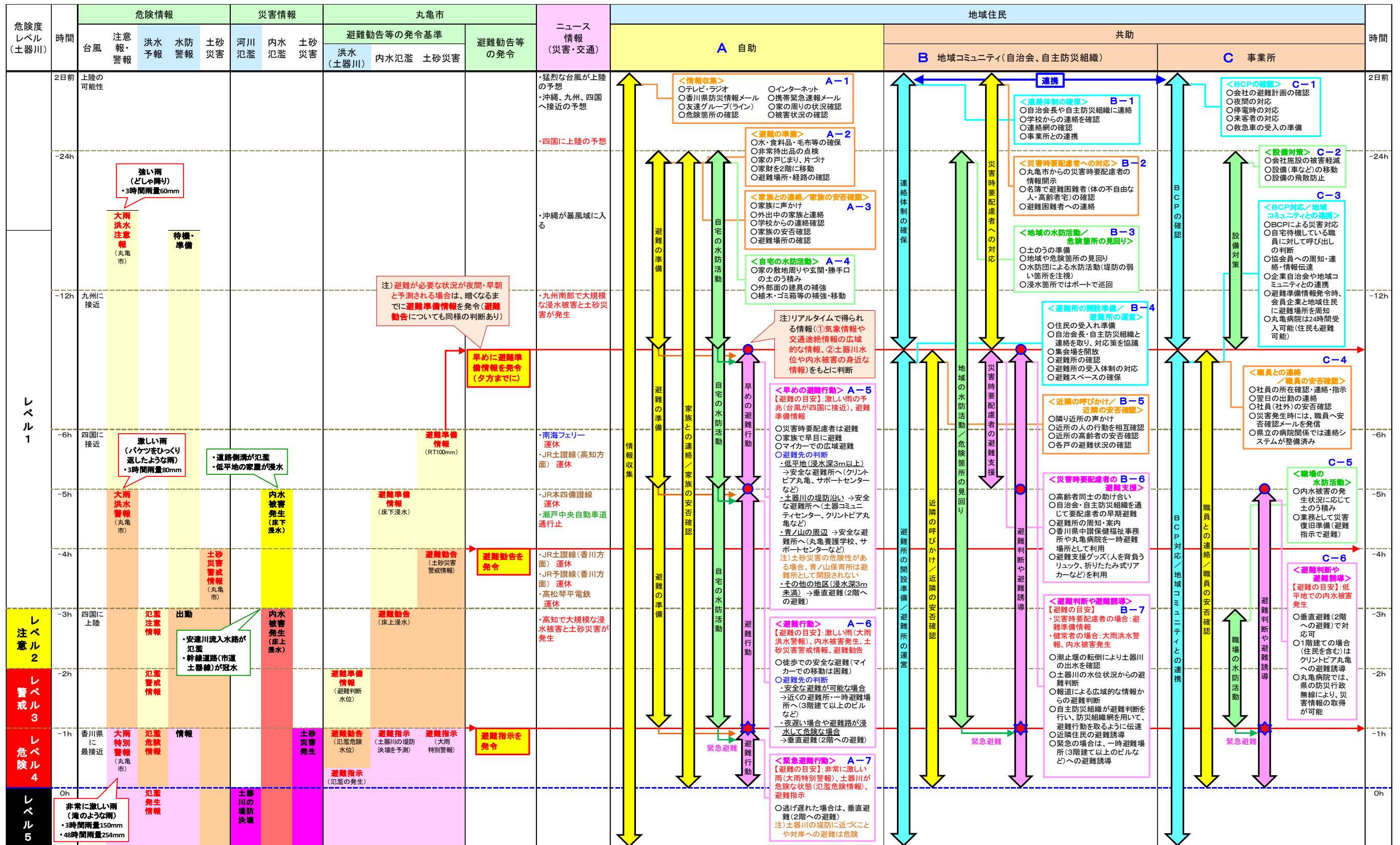
- 堤防決壊1時間後: 氾濫流がJR線まで到達
- 堤防決壊2時間後: 氾濫流が浜街道まで到達
- 堤防決壊3時間後: 氾濫流が大東川まで到達

3. 検討の進め方と成果

検討内容(情報共有と意見出し)	検討成果
第1回 ワークショップ ■住民の防災行動シミュレーション ・水害発生前の危険な状況として、「 2つの場面(ステージ) 」を想定 ・【意見カードで検討】: 時間軸に応じた防災行動を考える <基礎情報> ・P.3 避難指示・避難勧告・避難準備情報の違い ・P.3 土器川の水位レベルに応じた避難勧告等の発令基準 ・P.4 危険・避難情報伝達の事例(H26T11、H27T11) ・P.5 土器川モデル地区における防災情報の時系列対応図	■防災行動の意見まとめ →時間軸(いつ) 災害警戒期(ステージ1・2) →立場(誰が) 地域住民(自助) 地域コミュニティ(共助) 行政への要望(公助) →防災行動における 問題点の抽出 <住民意見> ・P.6 防災行動の意見まとめ
第2回 ワークショップ ■私たちのタイムライン作成(自助、共助) ・ 災害警戒期のタイムライン(たたき台) の提示 ・【タイムラインシート・意見カードで検討】: 防災行動を掘り下げる、防災行動の課題を考える <参考資料> ・P.6 住民タイムラインを実行するための主な論点 ・P.7 平成27年9月関東・東北豪雨(鬼怒川の堤防決壊)の教訓	■防災行動の掘り下げ → 避難の目安 (避難のきっかけ・タイミング、避難行動の判断基準・指標) →タイムラインの 良いこと・課題 <住民意見> ・P.8 「避難のきっかけ・タイミング」、「避難行動の判断基準・指標」 ・P.9~10 タイムラインの良いこと・課題
第3回 ワークショップ ■住民タイムライン(素案)の検討 ・ 災害警戒期のタイムライン(素案) の提示 ・【タイムラインシート・意見カードで検討】: 「早めの安全な避難行動」を考える ・P.2 土器川モデル地区における 住民タイムライン(案)	■住民タイムライン(案)の作成 →タイムラインの構成 → 避難行動 に着目して意見交換(避難の目安、記述内容の修正・追加) <住民意見> ・P.10 住民タイムラインの意見まとめ

土器川モデル地区(土器町東・北)における住民タイムライン(案)

※ 第1回～第3回ワークショップにおける参加者からの意見を集約し、自助・共助のタイムラインを並記してとりまとめたもの



● : 避難の目安
★ : 緊急避難の目安

平成28年2月作成

避難指示・避難勧告・避難準備情報・避難情報の違い

強制力弱い

避難準備
情報

避難所開設

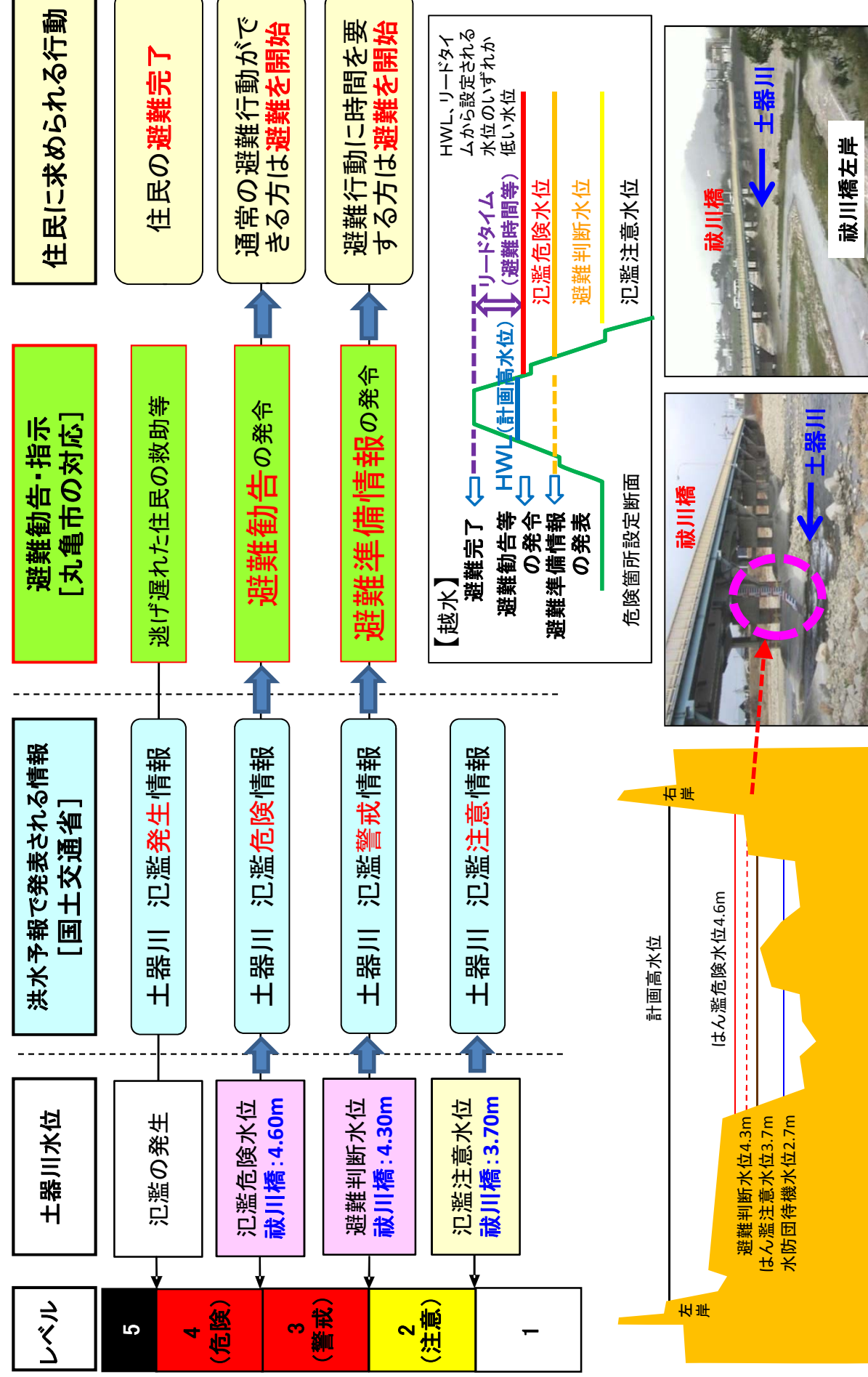
避難勧告

避難指示

強制力強い

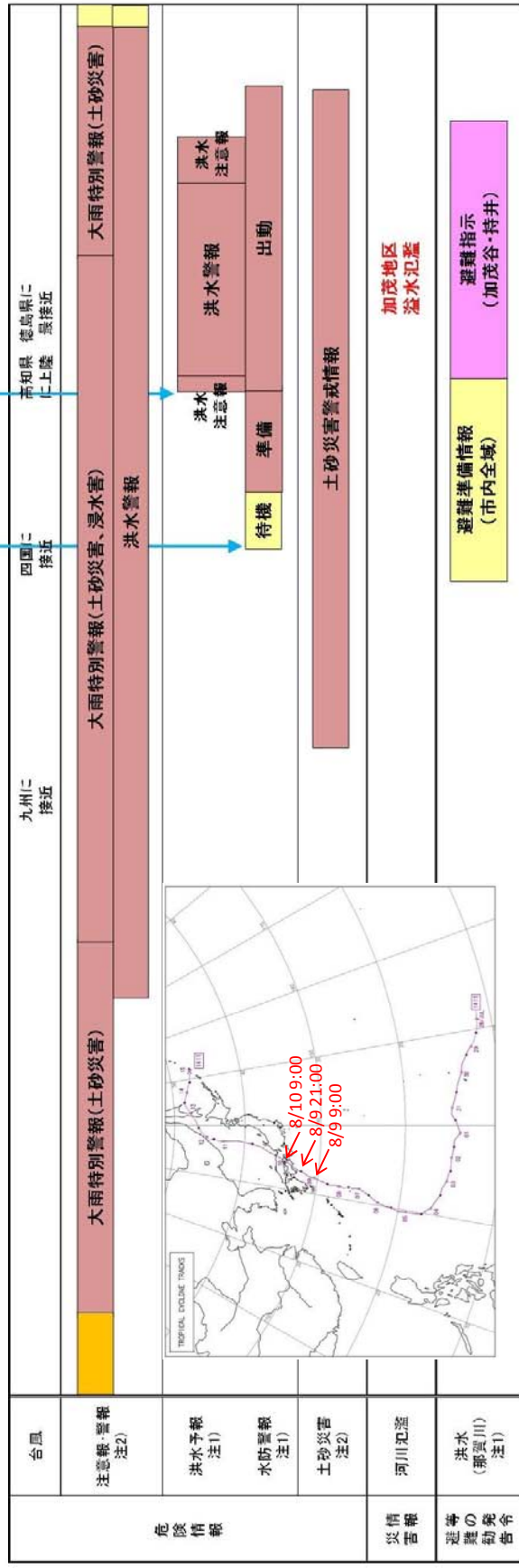
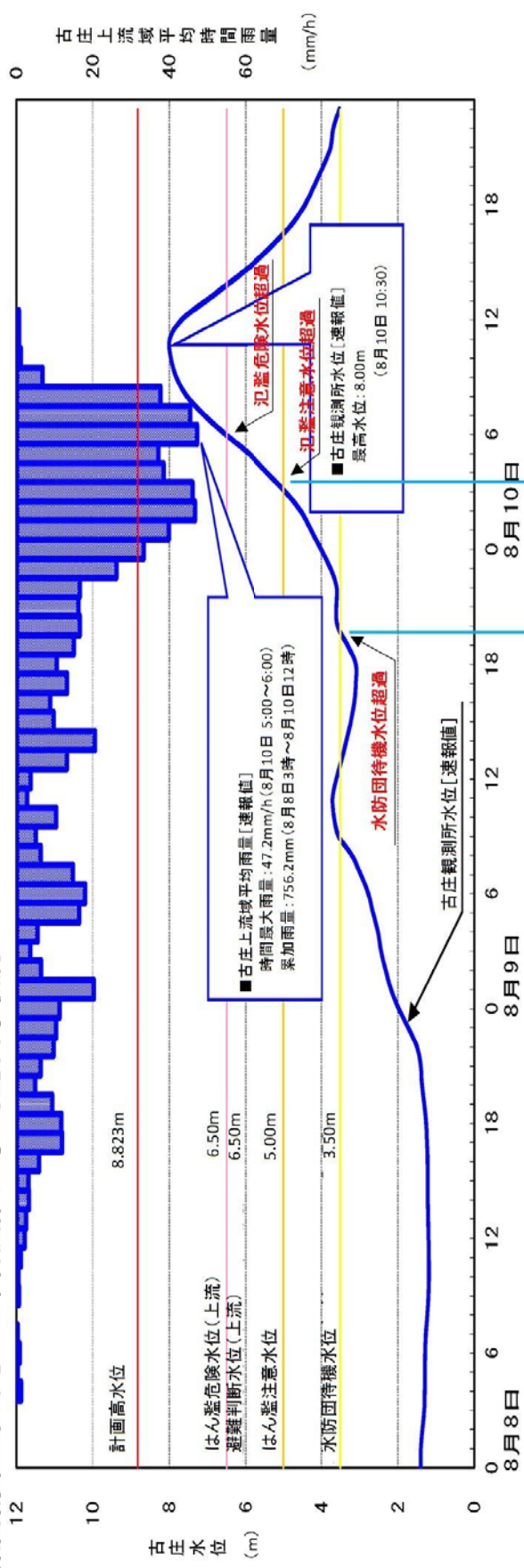
丸亀市の発令基準			
定義	河川氾濫(土器川)	内水氾濫	土砂災害
<ul style="list-style-type: none"> 避難勧告や避難指示を行うことが予想される場合に、被害が予想される地域の住民、特に高齢者ら避難に時間がかかる人に早めに避難を呼びかける。 災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合に発令される。 指定された避難所など安全な場所への避難を勧めるためのものだが、避難を強制するものではない。 状況がさらに悪化し、災害によって人的被害が出る危険性が非常に高まった場合や人的被害が発生した場合に発令される。 避難指示が出た場合は直ちに避難しなければいけない。ただし避難しなかった人に対する罰則規定などはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難判断水位(4.30m)に到達し、なお水位の上昇が見込まれ、避難危険水位(4.60m)に到達すると予想される場合。 漏水等が発見された場合。 避難が必要な状況が夜間・早朝と予測される場合。 氾濫危険水位(4.60m)に到達し、なお水位の上昇が見込まれる場合。 異常な漏水が発見されるなど、河川氾濫のおそれがある場合。 避難が必要な状況が夜間・早朝と予測される場合。 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水注意報が発表され、1時間に15mmの雨量があった場合。 床下浸水が発生した場合。 洪水警報が発表され、1時間に30mmの雨量があった場合。 床上浸水が発生した場合。 洪水警報が発表され、3時間に80mmの雨量があった場合。 土器川の破堤等の予測され、浸水深が2m以上になるおそれがある場合。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒状況でレベル3 降り始めからの積算雨量が100mmを越える場合。 土砂災害警戒情報が発表された場合。 土砂災害警戒状況でレベル4 降り始めから積算雨量が30mmを越え、時間雨量が30mm以上の強い雨が予想される場合。 記録的短時間大雨情報が発表された場合。 土砂災害警戒情報が発表された場合。 土砂災害警戒状況でレベル5 記録的短時間大雨情報が発表された後、強い降雨が継続している場合。

土器川の水位レベルに応じた避難勧告等の発令基準



危険・避難情報伝達の事例(平成26年8月台風11号)

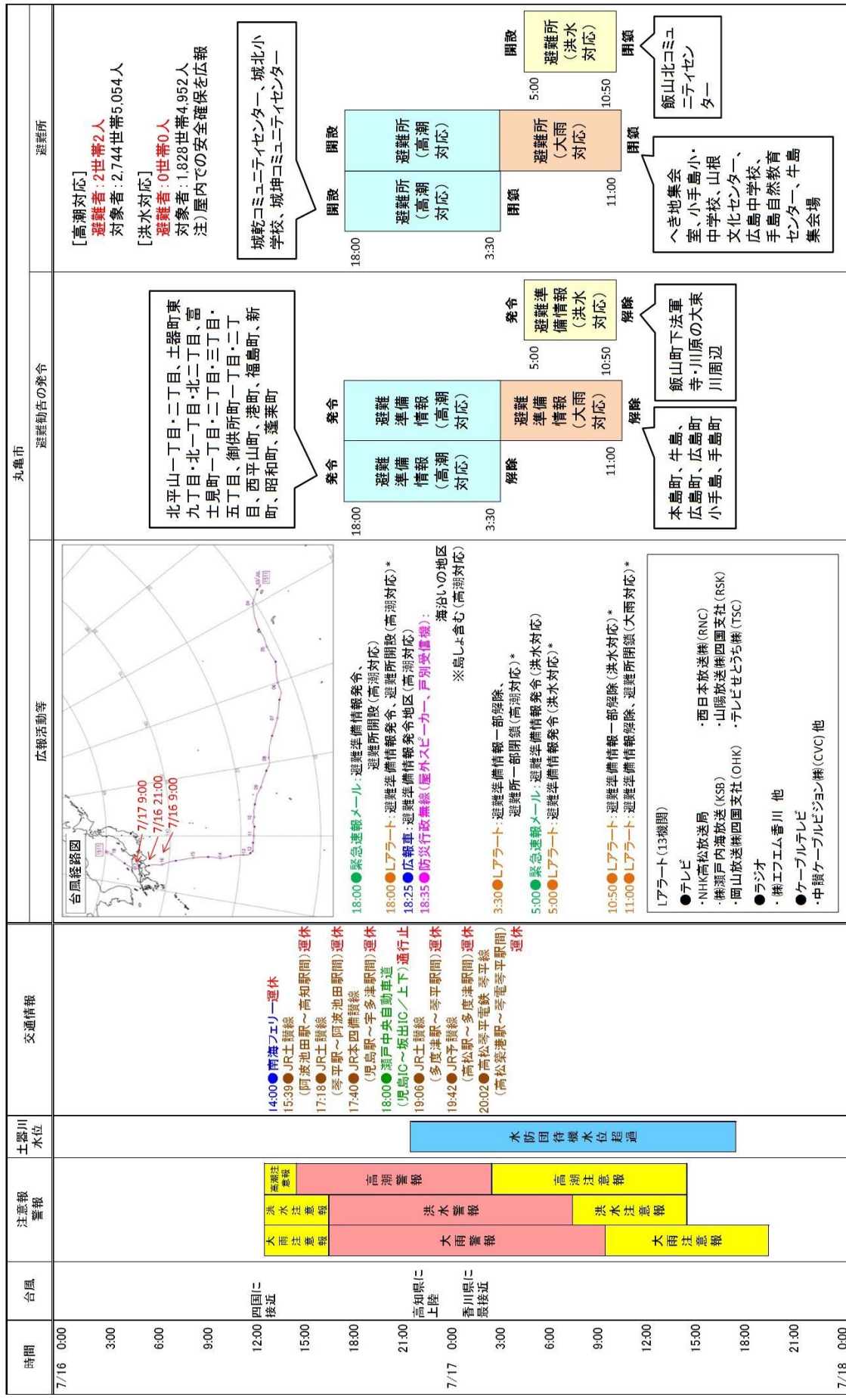
徳島県阿南市におけるH26年台風第11号による出水状況



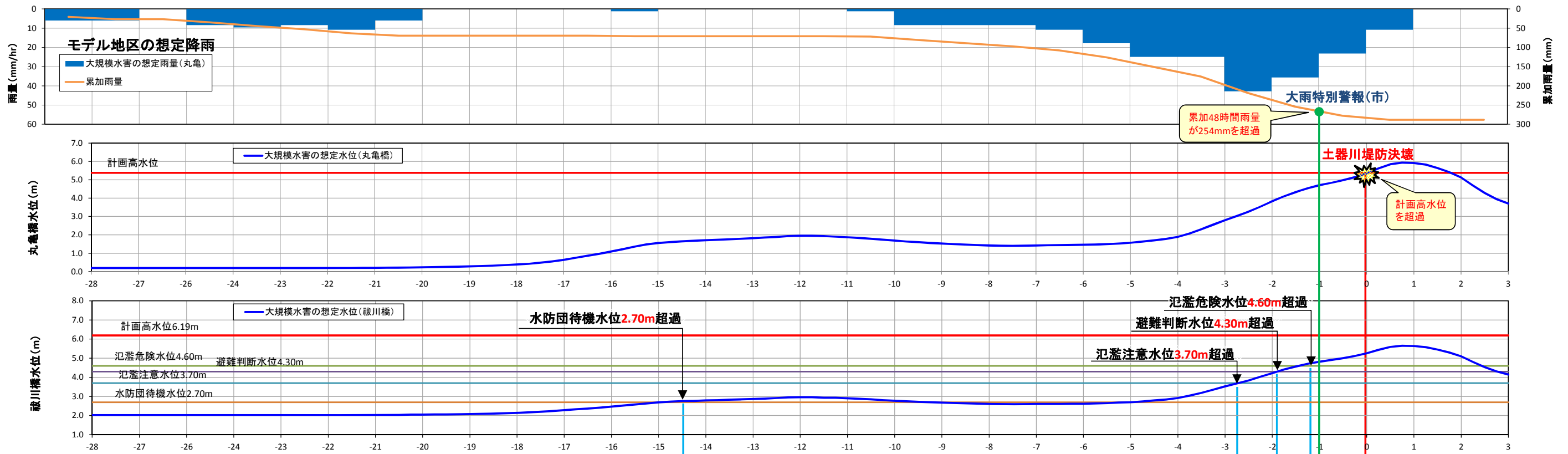
注1)『河川の関係機関(市町を含む)および住民への情報連絡・通知方法等 那賀川河川事務所、徳島県 平成26年8月29日(資料-8)』をもとに作成。
 注2)『災害時象徴速報 平成26年8月豪雨 気象庁平成26年11月17日』をもとに作成。

危険・避難情報伝達の事例(平成27年7月台風11号)

平成27年7月台風11号における丸亀市から住民への情報伝達



*丸亀市・香川県防災情報システムにより配信



危険情報	台風	上陸の可能性	九州に接近	四国に接近	四国に上陸	香川に最接近			
	注意報・警報			大雨洪水注意報		大雨洪水警報	大雨特別警報		
洪水予報						氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
水防警報			待機・準備			出動		情報	
土砂災害						土砂災害警戒情報			
災害情報	河川氾濫							土器川堤防決壊	
	内水氾濫					内水被害発生(床下浸水)		内水被害拡大(床上浸水)	
	土砂災害							土砂災害発生	
避難勧告等の発令	洪水(土器川)					丸亀市全域	避難準備情報	避難勧告	避難指示
	内水					土器町低平地	避難準備情報	避難勧告	避難指示
	土砂災害					青ノ山周辺	避難準備情報	避難勧告	避難指示
体制	香川河川国道事務所			注意体制			警戒体制	非常体制	
	香川県丸亀市			第一次配備体制			第二次配備体制	第三次配備体制	

土器川モデル地区（丸亀市土器町東・北）における防災情報の時系列対応図

第1回ワークショップ住民意見(防災行動の意見まとめ)

時間軸	地域住民(自助)	地域コミュニティ(共助)	行政への要望(公助)
ステージ 1 金曜日夕方(午後4時頃) 台風接近 大雨洪水注意報 避難準備情報 発令	01_ 情報収集 (テレビ、インターネット、家の周り等) 02_ 避難の準備 03_ 家族や職員との 連絡 04_ 身近な 避難の目安 (内水氾濫、道路冠水等) 05_ 避難先の判断 06_ 早めの避難行動	01_ 連絡体制の確保 (近隣、自治会、自主防災組織) 02_ 近隣の 呼びかけ 03_ 災害時要配慮者 への対応 04_ 共助としての 避難の目安 (潮止堰の転倒、河川水位等) 05_ 避難所開設の準備 06_ 危険箇所の見回り 07_ 事業所との連携	01_ リアルタイム情報 の伝達(きめ細かな広報) 02_ 地域との連絡体制 の確保 03_ 災害時要配慮者の情報開示 04_ 避難ビルの指定 (民間施設の活用) 05_ 避難所の情報や運営方法 06_ 早めの水防活動準備
ステージ 2 金曜日夜遅く(午後10時頃) 大雨洪水警報 土砂災害警戒情報 内水被害発生 避難勧告 発令	07_ 家族や職員の 安否確認 08_ 避難のタイミング 09_ 避難行動 (指定の避難所、一次避難場所、垂直避難、夜間の避難方法等) 10_ 自宅や職場の 水防活動 (土のう等) 11_ 逃げ遅れた場合 の対応	08_ 近隣の 安否確認 09_ 災害時要配慮者の避難支援 10_ 地域の 水防活動 (消防団、水防団等) 11_ 自主防災組織による 避難判断や避難誘導 12_ 避難所の運営 13_ 事業所の BCP(事業継続計画)対応	07_ 災害情報 の伝達(浸水箇所、土砂くずれ等) 08_ 安全な 避難路 の確保(堤防の照明等) 09_ 避難勧告等の周知 10_ 避難所の運営支援 11_ 救援物資の確保 (非常食、生活必需品等) 12_ 救助・救援 の対応(孤立者、災害時要配慮者等)
抽出した 問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・避難指示が出るのを待つ ・川沿いの避難所に移動したくない ・防災情報メールが頻発(見なくなる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時から付き合えない人への連絡は困難 ・水害、土砂災害等で避難所が違う(避難所が違うと移動ができないかもしれない) ・災害時要配慮者を把握できていない ・防災計画や避難計画が必要 ・会社対応には、BCPが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の避難勧告で逃げなかった ・どこへ逃げるかアナウンスしてほしい ・警報(サイレン)の意味がわからない ・避難勧告、避難指示等の区分がわからない ・丸亀市防災ラジオがない

住民タイムラインを実行するための主な論点

対象	問題点(第1回ワークショップ意見)	防災行動(主な論点)
地域住民(自助)	1) 防災情報メールが頻発(見なくなる) 2) 川沿いの避難所に移動したくない 3) 避難指示が出るのを待つ 4) 平常時から付き合えない人への連絡は困難 5) 水害、土砂災害等で避難所が違う(避難所が違うと移動ができないかもしれない) 6) 災害時要配慮者を把握できていない 7) 防災計画や避難計画が必要 8) 会社対応には、BCPが必要	1) 情報収集の仕方 → 複数の情報収集手段を活用する → 情報を選択して活用する(広範囲、地区) 2) 避難先の判断 → 避難所の特性を知る(河川氾濫、内水氾濫、土砂災害等) 3) 避難の目安、避難のタイミング → 身近な避難の目安を持つ(共助としても必要) → 自主的な避難行動を行う 4) 連絡体制の確保、事業所との連携 → 地域コミュニティの活性化を図る → 自治会、自主防災組織、事業所が連携する 5) 自主防災組織による避難判断や避難誘導 → 状況に応じて避難の方法を判断する(ただし、一概に避難先を決めることはできない) 6) 災害時要配慮者への対応、災害時要配慮者の避難支援 → 丸亀市が災害時要配慮者の情報を開示する → 自主防災組織が中心となって支援者を確保する 7) 防災活動・防災行動の全般、事業所のBCP対応 → 地区防災計画や避難確保計画を作成し、実践する → 事業所のBCPを作成し、実践する
地域コミュニティ(共助)	9) 今年の避難勧告で逃げなかった 10) どこへ逃げるかアナウンスしてほしい 11) 警報(サイレン)の意味がわからない 12) 避難勧告、避難指示等の区分がわからない 13) 丸亀市防災ラジオがない	9) 10) 11) 12) 避難勧告等の周知 → 指定の避難所しかアナウンスできない(夜間は垂直避難) → 自助・共助による避難判断や避難誘導を行う → 公助として、防災情報に関する広報活動を行う → 共助・公助の協働による防災訓練、避難訓練を行う 13) リアルタイム情報の伝達、災害情報の伝達 → 公助として、より確実な情報伝達手段を提供する(防災ラジオ、防災情報メール、防災行政無線、戸別受信機等)

私たちの中贖地区においても、土器川の堤防が決壊したとき、“今のまま”であれば、どうなるか？

対象	起こること	備考(行政の対応)
洪水外力	<ul style="list-style-type: none"> ● 濁流が波打ちながら、激しく流れ出る ● 長時間、濁流があふれ続ける 	
情報 - 避難	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難勧告・避難指示が遅れる ● 防災情報メールが発信されない ● 道路が渋滞して、避難所に行けない ● 他市町の避難所には行かない ● 障害者は避難しない・できない 	<ul style="list-style-type: none"> ● どこで堤防決壊が起こるか予想できない ● 様々な対応に追われる ● 指定の避難所しか伝達できない
被害	<ul style="list-style-type: none"> ● 死者が出る ● 孤立者が出る ● 家が流される ● 長時間、浸水する ● 長時間、停電・断水する ● ゴミの不法投棄が多量に出る ● 防災拠点が浸水する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 救命・救助活動 ● 緊急排水活動(排水ポンプ車) ● ライフライン復旧 ● ゴミ処理 ● 防災機能が麻痺する

自助タイムラインにおける「避難のきっかけ・タイミング」

ステータス	危険度レベル(土砂川)	時間	危険情報			災害情報			丸亀市			ニュース情報(災害・交通)	危険情報	災害情報	避難情報	
			注・警報・警報	洪水予報	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令					避難勧告等の発令
キースタ	レベル1	2日前	台風	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	近隣と相談(大雨の状況)			
	レベル1	-24h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報				
	レベル2	-12h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報				
	警戒	-6h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報				
	危険	-3h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報				
レベル5	0h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報					

注) 避難が必要な状況が夜間・早朝と予測される場合は、暗くなるまでに避難準備情報を発令(避難勧告)についても同様の判断あり)

安全な避難のため、早めに「避難のタイミング」を設定
「避難のきっかけ」として「避難の目安(判断基準・指標)」は、大雨洪水警報、床下浸水発生、道路冠水など

自助タイムラインにおける「避難行動の判断基準・指標」

ステータス	危険度レベル(土砂川)	時間	危険情報			災害情報			丸亀市			ニュース情報(災害・交通)	危険情報	災害情報	避難情報	
			注・警報・警報	洪水予報	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令					避難勧告等の発令
キースタ	レベル1	2日前	台風	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	近隣と相談(大雨の状況)				
	レベル1	-24h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報				
	レベル2	-12h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報				
	警戒	-6h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報				
	危険	-3h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報				
レベル5	0h	大雨	大雨	水防警報	土砂災害	内水	土砂災害	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	避難勧告等の発令	大雨洪水警報					

注) 避難が必要な状況が夜間・早朝と予測される場合は、暗くなるまでに避難準備情報を発令(避難勧告)についても同様の判断あり)

災害時要配慮者を対象とした「避難の目安(判断基準・指標)」は、大雨洪水警報、内水被害発生など

健康者を対象とした「避難の目安(判断基準・指標)」は、大雨洪水警報、内水被害発生など

第2回ワークショップ住民意見(タイムラインの良いこと)

項目(できること)	自助	共助
避難行動の判断(避難の目安)	<ul style="list-style-type: none"> 災害を想定して事前に行動がとれる 河川水位の上昇が思ったより早い事がわかった 行動の判断基準が分かりやすく、明確になった 	
早めの避難	<ul style="list-style-type: none"> 早めの避難をすれば安心 早く避難できる 自分の思っている避難のタイミングでは、遅すぎる事が分かった(小さい子供がいるため) 初動で迷わない 	
安全な避難先の選択	<ul style="list-style-type: none"> 自宅が割と安全な場所である 水害危険地域に自宅があるが、周辺に高い建物が多くある 避難するのに高いビルがあり、時間がかからなかった 	
時間軸を考えた準備・行動	<ul style="list-style-type: none"> 防災行動にもいくつかあり、時間関係で考えておく必要がある いつ、何をしなければいけないかが明確になった 	<ul style="list-style-type: none"> 避難の計画性 行動の確認ができる 時間軸で準備・行動が必要である
災害時要配慮者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 自分の命・家族が大切なので、要介護者を事前に助ける必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が安心できる
家族や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 家族と共有できる 	<ul style="list-style-type: none"> 共通認識として役立つ 自分が気付かない所の理解 常に近所が仲よくし、声をかけ合う
事業所BCPによる対応		<ul style="list-style-type: none"> 事業所のため、BCPで対応

第2回ワークショップ住民意見(タイムラインの課題)

テーマ	対策項目	自助	共助	公助
情報	①複数の情報収集手段の活用	<ul style="list-style-type: none"> 防災情報メールが頻発(見なくなる) 正確な情報収集が必要 災害は複数、リスクの高い災害に対応 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の行政情報収集チャンネル確保 	<ul style="list-style-type: none"> 丸亀市防災ラジオがない 多様な情報伝達手段の確立 複数災害で複雑になる
	②避難の目安(避難のきっかけ・タイミング)	<ul style="list-style-type: none"> 避難指示が出るのを待つ 避難のタイミングが難しい 自分の避難のタイミングが少し遅い 	<ul style="list-style-type: none"> 内水被害発生の確認方法(特に夜間) これくらいの雨が降ったら危険という判断ができるように勉強 「火の見やぐら」で災害情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 土器川の水位、映像、CCTVを見て判断したい 土器川の危険箇所がわからない
	③避難先や避難方法の判断	<ul style="list-style-type: none"> 川沿いの避難所に移動したくない 	<ul style="list-style-type: none"> 水害、土砂災害等で避難所が違う(避難所が違くと移動ができないかもしれない) 避難所の確認(自治会毎) 	<ul style="list-style-type: none"> どこへ逃げるかアウンスしてほしい 中讃保健所と丸亀病院は避難場所にできるようにしておく 避難場所は適切に選定する(場所によっては不適な所がないか)
	④避難勧告等の周知(広報活動、防災訓練、避難訓練等)	<ul style="list-style-type: none"> 今年の避難勧告で逃げなかった 		<ul style="list-style-type: none"> サイレンが聞こえない 防災行政無線の放送が聞き取りにくい(特に風が強い場合) 緊急避難メールが伝わりやすい 避難指示の行政力を発揮してほしい 早めの避難勧告等 避難指示ではなく、避難命令の方が良い

注) 緑色文字: 第1回ワークショップ意見 黒色文字(下線): 第2回ワークショップ意見

第2回ワークショップ住民意見(タイムラインの課題)

テーマ	対策項目	自助	共助	公助
連携	⑤ 連絡体制の確保(自主防災組織の活性化、地域と事業所との連携)	・近所付き合いが大切	<ul style="list-style-type: none"> ・平時から付き合のない人への連絡は困難 ・普段から近所の方々と防災の話をしていきたい ・地域コミュニティや自治会が有事の時は体制を作り、集結する ・自治会の連絡網・連絡体制の整備 ・自治会内の役割分担の周知・確認 ・自主防災組織がまだまだ成立していない ・自主防災組織の役割分担を共有 ・丸亀市と地域コミュニティの連携で、あいまいな部分がある ・情報連絡網の体制が整備されていない ・企業間の連携の有無が影響する ・企業主の考え方の整合が必要 ・多種多様な事業所が集まっているため、物事の考え方の整合が難しい 	
	⑥ 災害時要配慮者への対応(災害時要配慮者の避難支援)		<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要配慮者を把握できていない ・災害の場合に他人を助けることができるか不安 ・共助する方への連絡方法があまりない 	
	⑦ 避難行動の支援(防災計画や避難計画、事業所BCPの作成)		<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画や避難計画が必要 ・会社対応には、BCPが必要 ・BCPIに水害も検討しておく ・域内企業への周知方法 	
	⑧ 避難の事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の準備(情報etc) ・個人個人の準備 		
	⑨ 被害軽減のためのハード・ソフト整備	・被害の最小化		
	⑩ 応急対策(被災者の支援)		<ul style="list-style-type: none"> ・起こることは仕方ないので、事後が大事 ・「事後復旧」と「事前対応」 	
その他(実効)				・土のうの準備

注) 緑色文字: 第1回ワークショップ意見 黒色文字(下線): 第2回ワークショップ意見

第3回ワークショップ住民意見(住民タイムラインの意見まとめ)

地域住民(自助)	地域コミュニティ(共助)	事業所(共助)	行政への要望(公助)
<ul style="list-style-type: none"> ● 情報収集 ・情報を収集する必要 ・青ノ山の土砂崩れの情報が必要 ・防災情報メールでは情報を選択 ・潮の干満時間の情報(満潮時が浸水しやすい) ・現場にいるため、避難準備情報が届かない ● 避難の準備 ・自分のバイオ情報(血液型、病歴)を持つ ・安心キットが家族で1本必要 ・救助要請旗を作る ・避難済み旗を出して避難 ・注意報でいつでも避難できる準備 ・避難場所を個々に決めておく ・一時避難場所の確認 ・避難所までの経路の確認 ・土器コミュニケーションセンターへの避難経路には危険箇所が多い ● 早めの避難行動 ・24時間前では早すぎる ・経験のない状況での避難 ・避難開始を早めるため、危機感をあおる ・注意報レベルでも避難した方が良い ・学校での基準も見直しが必要か ・土器から子供が帰る、または学校が休みで、やっとな避難 ・他の自治体施設へ避難 ・対岸(左岸側)への避難(城北小学校など) ・避難場所の選択は自主判断 ● 避難行動 ・土器川の水位状況が避難判断の大きな要素(台風情報だけでは判断ができない) ・避難勧告が出たタイミングで家族連携 ・車で避難するか、徒歩で避難するか(雨の状況、距離、時間によって変わる) ・市の情報が一番の判断基準 ・市と気象庁では、受ける感覚が違う ・香川県中讃保健福祉事務所へ逃げる ・青ノ山保育所へは個々の判断で避難(なお、土砂災害の危険がある場合、市は開設しない) ・空振りでも行政を責めない ・避難勧告での避難行動で良いのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ● 連絡体制の確保 ・隣近所で声かけしやすい体制を作る ・地域住民との連絡も必要(事業所) ・連絡網が必要 ・一晩、避難所で過ごせば意識が変わる ● 避難所の開設準備/避難所の運営 ・避難所の開設にも時間がかかる ● 近隣の呼びかけ/近隣の安否確認 ・近所に声かけ、手助け ● 地域の水防活動/危険箇所の見回り ・洪水が堤防を越える箇所がわかれば、対応できるか ・堤防の弱いところを周知 ● 災害時要配慮者の避難支援 ・人を背負うリュックを用意 ・アマチュア無線所有者の協力 ・丸亀病院の入院患者は垂直避難 ● 地域コミュニティによる避難判断や避難誘導 ・水位による避難判断 ・特別警報が避難のタイミング ・警報と学校連絡(下校時間)の関係は? ・いつ堤防が切れるかわからない ・報道による高知の災害情報を見ると良い ・各種情報から適切な判断ができるようにする ・が、最後は自分の判断で行動 ・迷いがあれば垂直避難 ・弱者は避難に時間がかかる ・自分が避難していないので説得力がない(働みにくい) ・避難勧告のタイミングでも、避難の協力が得られないかも ・避難ギリギリで、一気に行動する ・近所の個人宅3Fへ避難 ・避難勧告が1番の判断基準 ・予測情報で判断 ・避難する明確な理由が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● BCP(事業継続計画)の確認 ・事業継続を図りながら、避難準備 ● BCP対応/地域コミュニティとの連携 ・避難準備情報発令時、会員企業と地域住民に避難場所を周知 ・丸亀病院は守衛がいるので、24時間受入可能(住民も避難可能) ● 職員との連絡/職員の安否確認 ・避難準備情報発令時、全社員へ確認 ・災害発生時には、職員へ安否確認メールを送る ・県立の病院関係では連絡システムが整備済み ● 職場の水防活動 ・避難勧告では復旧のために待機、避難指示で避難 ● 事業所による避難判断や避難誘導 ・丸亀病院に住民が避難してきても、外科の医師は不在(外科処置ができない、軽傷はOK) ・丸亀病院では、県の防災行政無線により、災害情報の収受が可能(土器川の情報は遅い) 	<ul style="list-style-type: none"> ● リアルタイム情報の伝達 ・台風や雨の予測と一緒に水位の予測がほしい ・過去のデータで予測ができないか ・雨、水位、潮位の関係を住民に周知 ・防災ラジオの全戸配布 ・地域コミュニティFMを放送してほしい ・河川水位モニターを増設と情報公開 ・筋川橋の水位情報と土器川下流水位の関係を知る方法 ・筋川橋と蓬萊橋の間の水位情報がほしい ・水位は激しい雨の降り始め前から公開 ・ケプトルテレビが放送してほしい ・広報車の活用(広報車を頻繁に走らせる) ・連絡網の強化(一度に多人数が情報を把握する方法) ・避難指示をアラートでテレビやラジオに割込 ・エリアメールでの情報発信 ● 避難に関する情報・支援・連携 ・住民が行動を起こせる明確なトリガーがほしい ・水位情報と経験が結びついていない ・安心キットの全戸配布 ・要配慮者へ早めに連絡し、避難準備をしてもらう ・学校と行政との連携 ● 避難勧告等の周知 ・防災行政無線のサイレン音量が小さい ・難しい言葉を使わず、急を要する短い言葉(アップ、キケンなど)を使った方が良い ・空振りは良いこと、住民は怒ってはダメ ● 避難所の情報や運営方法 ・広域避難とは、どこまでか ・避難所のカギをいつ開けるのか ・避難所にいった時の人との関わり方 ・避難所の収容人数も問題 ● 一次避難所の指定 ・香川県中讃保健福祉事務所を指定 ● 土器川の河川整備・堤防点検 ・堤防の巡視強化 ● 防災教育 ・子供に情報や災害の学習(ワークシヨップ)